

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p> <p>⇒</p> <p>〈めざす子ども像〉 【知】あそぶ・学ぶ・学び合う子 【徳】やさしく・かかわる・つながる子 【体】元気でやりぬく子</p>	<p>今年度の基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが主役となる保育・授業づくりと確かな学力の定着 2 友だちやまわりの人に進んでかかわり、仲間としてつながろうとする態度の育成 3 心と体を鍛え、健康増進・体力向上に努める態度の育成 4 自立と社会参加をめざしたキャリア教育 5 子どもと向き合う時間を充実するための業務改善
---------------------------	---	---

<p>評価基準</p>	<p>A:十分達成⇒81～100%⇒問題なし D:まだ不十分31～40%⇒改善が必要</p>	<p>B:概ね達成61～80%⇒特に問題なし E:目標や方策の見直し30%以下</p>	<p>C:変化の兆し41～60%⇒経過を分析し、改善方策を検討</p>
-------------	--	---	-------------------------------------

項目		最終評価 (1月)	
項目	評価の項目	経過・達成状況	評価 次年度に向けての改善方策
<p>1 子どもが主役となる保育・授業づくりと確かな学力の定着</p>	<p>○学ぼうとする意欲や思考力・表現力の向上 ○適切な目標設定による授業改善</p>	<p>・写真日記を活用して1日の振り返りをしたり、ことばの確認の時間を増やしたりして、表出することばが増えてきている。ただ、ことばの拡がりや定着には課題が残る。 ・絵本の時間でグループ分けを行い、幼児の実態に合った絵本の選定ができ、内容と一体化して再現遊びをするなど、絵本の世界を楽しむ姿が多く見られた。 ・児童の実態や支援方法等の情報を共有して、共通理解のもと、児童の実態に応じた指導・支援を行うことが増えてきている。 ・繰り返しの活動により、経験を言語化することに慣れ、意見や思いを自信をもって伝えようとする姿が少しずつ見られるようになってきた。 ・新型コロナウイルス感染症の流行のため、交流及び共同学習などかかわり合いの場が少なかった。 ・学部内で幼児児童の実態や指導方法等が共通理解され、実態に応じた保育・学習内容や教材・支援が改善・工夫されたことにより、幼児児童が主体的に他者と関わり、自分の身につけた「ことば」で伝えようとする姿が見られるようになった。 ・参観ウィークや一人一研究授業、全体授業研究会等の取組により、職員一人一人が専門性や指導力を高め、日々の実践に活かすことができた。 ・幼稚園から小学部まで一貫して系統づけた指導に活かせるよう、自立活動指導プログラムを見直し、改善することができた。</p>	<p>B B A</p> <p>・引き続き、発達段階に合わせた写真日記や絵日記の活用、1日の活動の振り返りと言語化へのかかわりの取組を進める。また、教員同士で幼児一人一人のねらいを共有して、ことばでのやりとりを深める。・引き続き、幼児の興味・関心を広げることにつなげるよう、実態に応じたグループ分けをするとともに、様々なジャンルの絵本の読みかきかせをする。 ・児童の実態や課題について、学部会など職員間での情報共有をこまめに行い、同じ方向性で指導・支援にあたるよう、共通理解の機会を定期的に行いつつ、子ども同士のかかわり合いの機会をさらに意図的に設定し、伝える経験を積み重ねられるようにする。 ・「伝える*考える*見つめる」ためのことばの習得を意識して、学習内容の精選、指導内容の工夫を図っていく。 ・一人一研究授業、参観ウィーク、鳥聾スタンダードのチェック等を計画的に行い、聾学校職員としての専門性を高める。 ・見直した自立活動指導プログラムを活用しつつ、改善、修正をしながら個別の指導計画や日々の指導に活かす。</p>
<p>2 友だちやまわりの人へ進んでかかわり、仲間としてつながろうとする態度の育成</p>	<p>○人とかかわり主体的に生きる力の育成 ○コミュニケーション力の向上</p>	<p>・交流保育では、友達とかかわり方について確認することで、友達と交流圏の先生と積極的にかかわることができた。 ・小学部のなかよしタイムに参加することで、自ら進んでかかわっていくとする姿が見られた。また、簡単なルール性の遊びを取り入れることで、ルールを守って友達と遊ぶ姿も見られた。 ・様々な活動の場面で自分の考えや思い、感想発表の機会を設けることで、積極的に友達や先生に思いを伝えるようになった。また、手話や音声の表出が増え、コミュニケーションが活発になってきた。 ・休憩時には、学部の友達と関わりながら遊ぶことが増えている。また、友達のことを気にかけている様子も見られた。 ・「なかよしタイム」では、学部内外の友達や教員と自分から進んでかかわり、楽しく活動することができた。 ・教師が児童のよいところを認めたり、教師の支援を受けて児童自身が考えたりすることで、自分や友達を認める様子が見られるようになってきた。 ・活動のねらいを保護者に伝え、制作活動や音あそび、自由あそび等を行った。保護者は、かかわり方やことばかけを考えた子どもに接し、親子が笑顔でやりとりをする様子が見られた。 ・コロナ禍での親子活動の充実に向けて、家庭でも継続してできるように手歌あそびや絵本の読みかきかせのDVDを制作し、情報提供をすることができた。 ・個別にミニ研修会を実施することは難しかったが、月1回「ひよこだより」にことばに関する情報提供を行った。</p>	<p>A A A</p> <p>・引き続き、交流圏と連携をとりながら、交流の方法やかかわり方を工夫する。 ・ルール性のある遊びを意図的に設定して、ルールを守って楽しむことの大切さを伝える。 ・引き続き、獲得語彙の拡充を図っていくとともに、体験したことや気持ちを話す場を意図的に設定する。 ・休憩時間をしっかりと確保し、友達同士で遊ぶ機会を増やす。 ・かかわり合い活動を増やすとともに、友達のことに基づけるような活動内容を組んだり、自分や友達の行動を丁寧に振り返りつづける機会を設定する。 ・活動の流れを精選し、保護者への情報提供や話し合いの時間を確保する。 ・本校支援部と合同で保護者研修プログラムの作成・検討を行う。</p>
<p>3 心と体を鍛え、健康増進・体力向上に努める態度の育成</p>	<p>○健康で安全に生活する力の定着</p>	<p>・朝や昼の自由あそびに、体を動かす時間を意図的に入れることで、体をしっかりと動かす姿が見られた。 ・様々な活動で安全に関する声かけを継続していくことで、安全確認を自ら行う様子が見られた。 ・定期的な健康観察を通して、自分の体調について説明したり質問に答えたりできるようになりつつある。 ・毎朝5分間のマラソンやストレッチを継続したことにより、体力づくりへの意欲の向上が見られた。 ・毎日の検温や手洗いの徹底により、健康な体を保つことへの意識が高まっているが、健康に生活していくための方法をしっかりと身につけているかについては、まだ、不十分である。 ・「新しい生活様式」の徹底に向けた掲示や呼びかけを行うことで、幼児児童の意識は薄れず、継続できている。 ・災害等の避難対応訓練をすべて行い、緊急時の対応を確認することができた。避難訓練等から出てきた課題を整理し、来年度に向けて訓練の統合や実施時期の調整等を行っている。</p>	<p>A B A</p> <p>・引き続き、運動の時間以外にも体を動かす時間を設定する。 ・幼児の動きを見守りながら、安全な行動を視覚化し、危機回避の意識を高める。 ・自分の健康状態について具体的に説明ができるように、場面を捉えて意図的に声かけをする。 ・今後も毎朝の5分間運動(マラソン・ストレッチなど)を継続し、体力づくりのバリエーションを増やしていく。 ・子どもたちが意識して取り組めるように健康や衛生管理に関する目標等を掲示したり、振り返る時間を設定したりする。 ・今後も感染状況が続く可能性がある。国や県の方針に従いながら、状況に応じた感染対策のレベルアップや意識化を行っている。 ・災害等の避難対応について細かな対応の改善についてまとめ、来年度に向けて申し送りをする。</p>
<p>4 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の推進</p>	<p>○関係機関との連携による支援の充実</p>	<p>・今年度の教育相談の内容からきこえやことばに関する資料を収集、精選しているところである。 ・第2回聴覚特別支援学級担任情報交換会は日程の調整ができず実施できなかった。 ・聴覚特別支援学級担任へGoogle classroomを活用して、毎月20日に聴能だより「みみだより」ときこえに関する情報を発信した。 ・キャリア教育だけでなく、キャリア教育の視点から学校行事を振り返ったり、卒業生の様子などについて発信したりすることができた。また、校内掲示板では、きこえない・きこえにくい人がさまざまな職種で活躍されている記事を表示し、キャリア教育への意識向上を図ることができた。 ・キャリア・パスポートについては、保護者と連携して作成しているように、懇談時などに説明するための研修を行った。児童の実態に応じた伝え方を工夫することで、キャリア教育の視点からの児童にわかりやすいコメントを保護者に記入してもらうことができた。 ・キャリア段階表をもとにキャリアケース検討会を実施し、共通理解したことを日々の実践につなげるように努めた。年間を通してキャリア発達を意識した指導・支援を進めることができた。</p>	<p>A A</p> <p>・職員の見解を取り入れて、さらに資料活用がしやすいように、資料内容や資料保管場所等を検討する。 ・聴覚特別支援学級担任情報交換会の年間計画を立案し、年2回程度実施する。 ・聴覚特別支援学級担任へ提供した資料の活用状況を尋ね、今年度に引き続き、Google classroomを活用して月1回程度きこえに関する情報発信をする。また、相互のやりとりの場となるように活用する。 ・次年度も継続してキャリア教育だよりの定期的な発行や校内掲示の更新を行う。また、低年齢の幼児児童とその家庭にとってのキャリア教育について情報を集め、発信する。 ・今年度と同様に、キャリア教育の取組やキャリア・パスポートについて、個人懇談等で活用方法について保護者に説明する機会を作る。また、そのための職員研修を行う。 ・年度当初に、キャリア教育やキャリア教育段階表、キャリア・パスポートについて各学部で共通理解する時間を設定し、幼児児童の実態や課題に応じた指導・支援内容を共有する。</p>
<p>5 子どもの業務改善の推進</p>	<p>① 個々の時間外業務の削減 ② 校務分掌の運営の見直し</p>	<p>・施設する時に声をかけ合ったり、幼稚園棟の施設時間を決めて取り組んだりすることで、業務改善への意識が高まった。冬場は早めに業務を終えて帰る教職員が増え、時間外業務月40時間以上の教職員は0名になった。(12月、1月達成) ・職員朝会やグループボード等を使って日頃から情報共有し、会議の精選をすることができた。企画部会で子どもたちの様子や教職員の様子を含めて情報共有し、課題があるときには意見交換をして改善を図ることができた。校務分掌表や運営の見直しについて意見交換をしている状況である。</p>	<p>A</p> <p>・自分の時間外業務時間の確実な入力と把握をして、働き方の意識改革につなげるとともに、各学部内や分室内での業務分担を見直し、調整する機会を定期的に行う。 ・職員朝会の時やグループボード等を使って日頃から情報共有し、会議運営を精選しスマートな学校運営を心がける。企画部会のメンバーを中心に、校務分掌の運営について意見を出し合い、よりよい方法で進めていく意識を持つ。</p>